

1997年と1998年の早生ウンシュウと青島温州の品質の違いについて

谷 村 音 樹

目 的

1997年に収穫したウンシュウミカンと、1998年に収穫したウンシュウミカンとは、食味に差があり、1997年のウンシュウミカンは食味が良かったのに対して、1998年のウンシュウミカンは食味が余り良くなかったように感じた。

そこで、どうして1997年のウンシュウミカンと1998年のウンシュウミカンと食味の差があったのか疑問に思い、1997年と1998年の早生ウンシュウと普通ウンシュウで調査をしてみたのでここに発表する。

材料と方法

早生ウンシュウの品種は、興津早生と宮川早生を使用し普通ウンシュウは、青島温州を使用した。

調査日は、1997年の早生ウンシュウは1回目を11月5日、2回目を11月13日、3回目を11月20日、4回目を11月26日、5回目を12月4日に行い、青島温州は12月15日に行った。1998年の早生ウンシュウは、1回目を11月2日、2回目を11月12日、3回目を11月27日、4回目を12月2日、5回目を12月9日に行い、青島温州は12月11日に行った。青島温州は、学生実習1回で収穫を終わらせるので1回しか調査をしなかった。

調査方法は、唐湊果樹園の気象記録により平年値と1997年及び1998年の月別平均気温、月別降雨量、月別日照量を出して早生ウンシュウと青島温州の糖度とクエン酸濃度とを照らし合わせて比較した。

結 果

第1図を見ると、1997年、1998年とも平年値より気温が高く、1997年より1998年の気温が1.32℃高かった。

第2図を見ると、1997年の降雨量は平年値と比べて、平年値を上まわる月があったが全体的に見て雨量は少なく、1998年は、平年値よりも雨量が多く、特に4月と10月は多かった。

第3図を見ると、1997年の日照量は平年値と比べて日照量が多く、1998年は平年値より少ないようだった。

第4図を見ると、1997年と1998年とでは、1997年の方が糖度が高く糖度の差が約1度あった。

第5図を見ると、1997年と1998年とでは、1997年の方がクエン酸濃度が高くクエン酸濃度の差が約0.2%あった。

表1を見ると、青島温州でも早生ウンシュウと同じく1997年の方が糖度が約1度高かった。表2に示したように青島温州でも、1997年の方がクエン酸濃度が約0.1%高かった。

1997年の収穫量は多く果実の大きさもそろっていたが、1998年は収穫量が少なく果実の大きさも大きめのミカンが多かった。

考 察

高品質ミカンは、普通サイズ(M, L)のミカンで余り大きめのミカンは品質が良くなく、糖度は12度位で、クエン酸濃度は0.8~1.0%位がおいしいミカンといわれている。

1998年はミカンの収穫前の10月に、平年の4倍以上の雨が降り水分の吸収が多すぎて酸が抜けて水っぽく感じ、果実の大きさも大きめだったため糖度が余りのらなかったため余り食味が良くなかった。1997年は、収穫前の10月の降雨量は平年の約3分の1と少なく、果実の大きさも普通サイズのものも多く酸もある程度あり糖度もある程度だったので食味が良かった。

以上のことから、ミカンの品質はその年の気象や収穫量によって大きく左右されることがわかった。今後も気象や果実分析のデータを取り調査を続けていきたい。

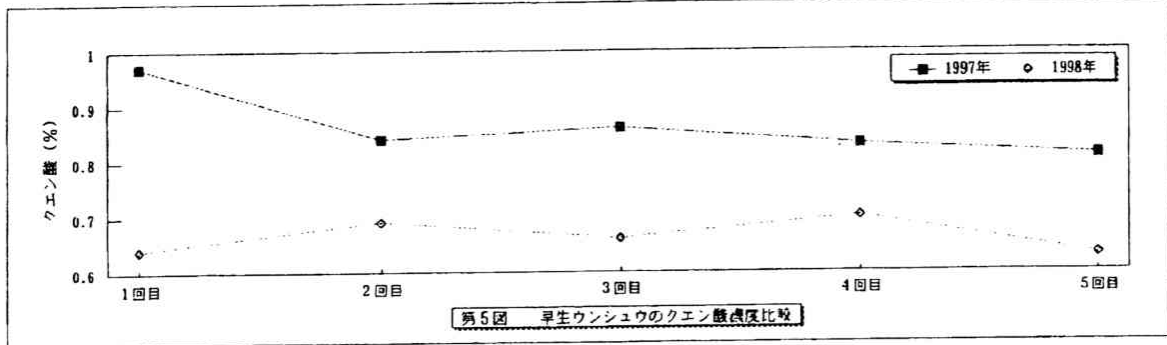
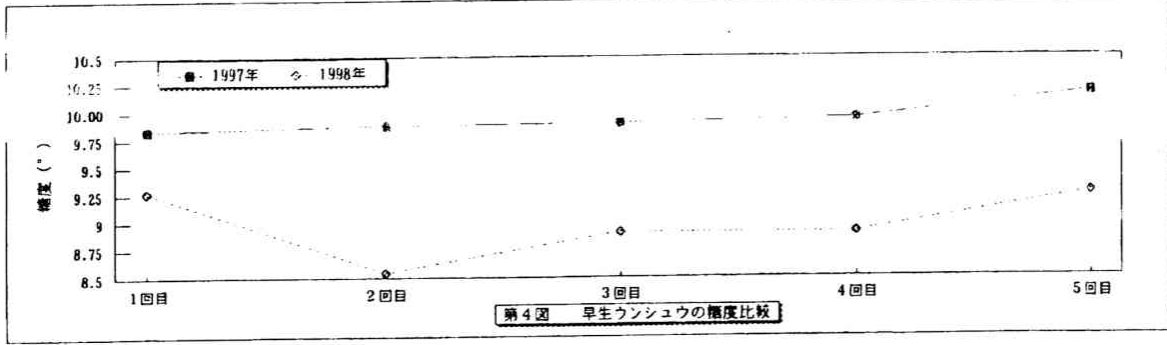
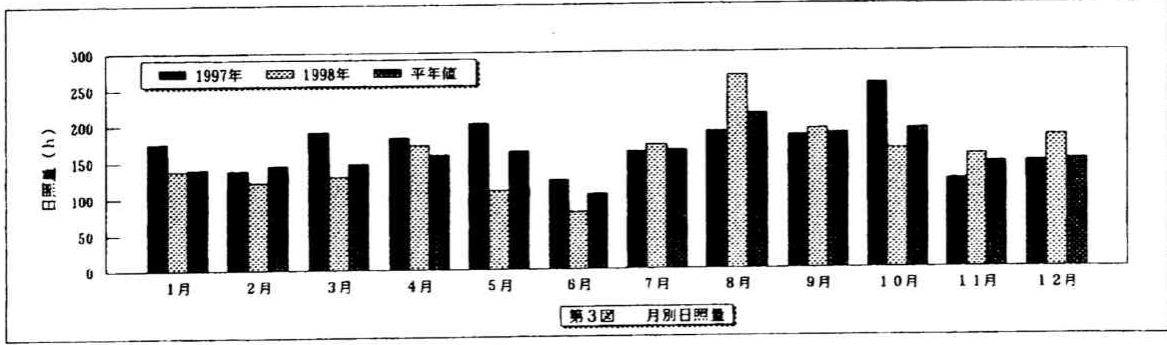
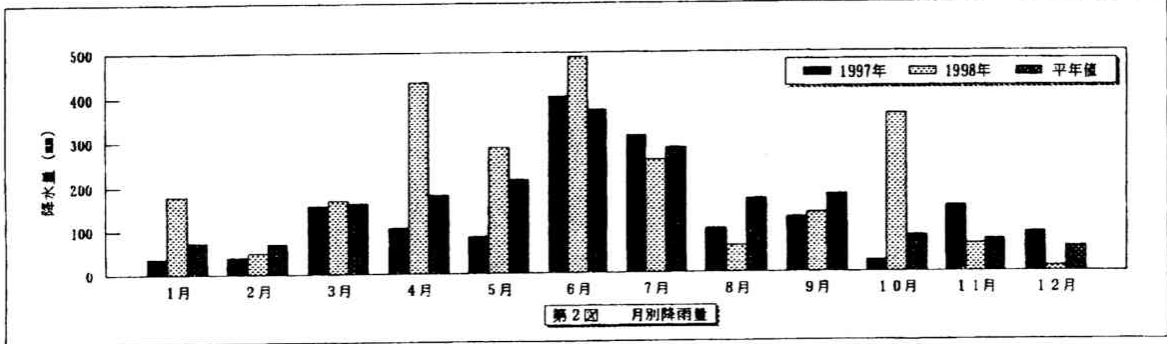
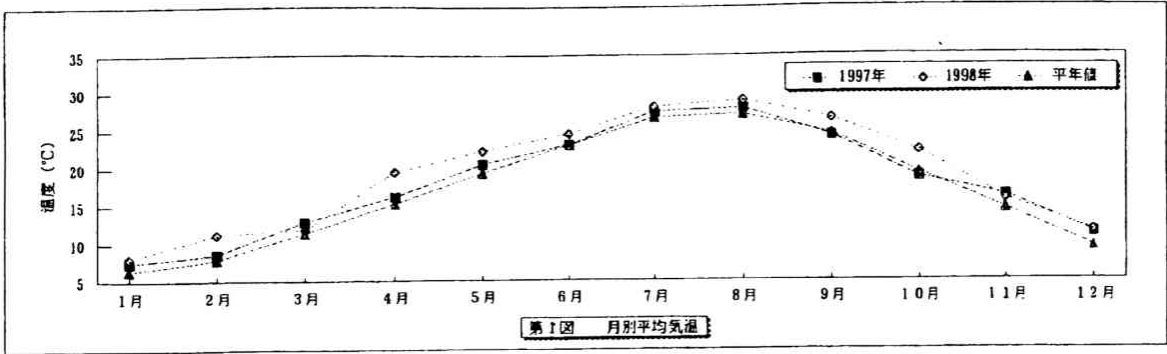


表1 青島の糖度比較

	1997年	1998年
糖度	10.58	9.59

表2 青島のクエン酸濃度の比較

	1997年	1998年
クエン酸	0.84	0.76